なごや環境大学　2019 年前期　一般市民向け技術士会愛知県支部環境講座

「楽しく」「わかりやすく」「面白く」地球環境の将来を語り合うタベ

第 2 回　地域から地球へ貢献“環境インターフェース”

主催：公益社団法人　日本技術士会　中部本部愛知県支部

日時：平成　31 年 6 月 11 日(火)　19:00～20:30

場所：　名古屋学院大学名古屋キャンパスたいほう恵館 303 教室

（地下鉄日比野駅下車 1 番出口から徒歩 10 分）

会費：1,000 円

講師：西嶋　純一　（技術士：　応用理学部門）

内容

No	項目	内容
1	はじめに	地球温暖化を抑制するには CO_2 排出削減だけではなく、CO_2 を“吸収”してくれる植物の重要性を再考し緑を増やさなくてはなりません。人工物世界である都市部で自然を豊かにし、環境改善を進める必要があります。 今回の『語り合うタベ』の狙いは、「地球の未来のために市民レベルでできる自然力 UP “環境インターフェース”の意識を深めよう」です。
2	地球の大気の歴史と人・都市・自然の現状を知りましょう	地球 46 億年の歴史を通して植物が大気を変え、動物の住める環境にしてくれました。しかし人類が産業を生み出し、大半が都市部に住むようになって、物質・エネルギーの消費で地球環境は悪化の一途、自然・樹木・大気の大切さへの認識も薄れているのが現状です。 都市を緑豊かなものにし自然との調和・親和を図ることが、地球全体の植物増加の礎となり人類の住みやすい地球維持につながるはずです。
3	地域・都市の自然・緑を豊かにするには ～環境インターフェース	人工物である都市の効率や安全性を落とさずにその自然力を高めるには、環境との親和力ある緑や水辺を復元する必要があります。親和性の高い緑化や植樹を形成する上では人工物と自然の界面（インターフェース）がポイントになります。“ものづくり工学”において異物質同士をつなぎ合わせたりマッチさせたりするインターフェース技術の例を紹介し、都市に緑を増やす方法に応用してみてアレコレ考えてみたいと思います。
4	自然復元の事例を知る	世の中では環境インターフェースを考え配慮した緑化・植樹の成功例が多数あるので、その事例を見てみます。またそれを踏まえて、自然復元自体を地に足の着いた“市民の技術力”にしていくために「参加・共有アクション」「情報発信」の視点も一緒に考えてみたいと思います。
5	地域・都市⇒地球環境の軸で考える意識改革	地球環境を悪化させた生物は人類のみですし、修復できるのも人類しかいません。都市部の普通の生活に樹木や水辺が豊かになれば 21 世紀の次世代の意識が変わり、緑の地球としての自然と大気をバランスしていけるようになるのではないでしょうか。そんな夢も語り合ってみましょう。

場所：名古屋学院大学名古屋キャンパスたいほう恵館 303 教室

（地下鉄日比野駅下車 1 番出口から徒歩 10 分）

会費： 1,000 円

申込み：[なごや環境大学 HP]の受講申し込みフォームをお使いください。

https://www.n-kd.jp/calendar/lineup/koza19s/B-01.html

<u>名古屋学院大学</u>
<u>名古屋キャンパスたいほう</u>
<会場のご案内>
名古屋学院大学名古屋キャンパスたいほうは、地下鉄日比野 駅 1 番出口を出てすぐ左へ、南東方向へ 400m ほど行ったところにあります。 会場は、その右側の建物（恵館）3 階の 303 教室です。